

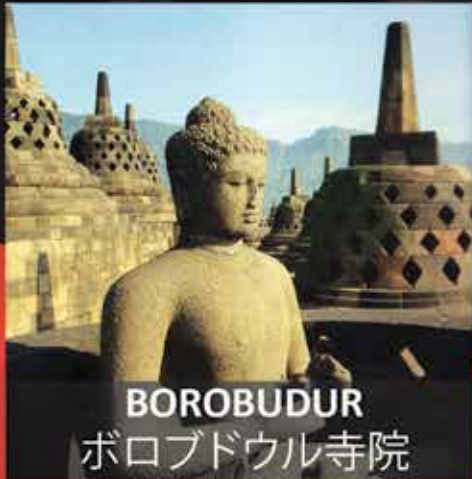
ADVENTURE INDONESIA

ツアー・オペレーター

www.adventureindonesia.com



BALI
バリ島



BOROBUDUR
ボロブドウル寺院



KOMODO DRAGON
コモドドラゴン



BROMO
ブロモ山

Member of :



Japan Association
of Travel Agents
NO.41814



Association of the Indonesian
Tours & Travel Agencies
No.1650/VI/ASITA JAKARTA.2014

PATA
Pacific Asia Travel Association
Member No.2114



アドベンチャー・インドネシア はジャカルタとバリを拠点に、自然と文化、アドベンチャーを楽しむ旅行を催行するインドネシアの正規の旅行代理店です。

自然と冒険を楽しむさまざまなツアーをインドネシア諸島全土で行っています。パプア大陸の最高峰カルステンツ・ピラミッド登頂、その他の山登り、熱帯森トレッキング、川下りやラフティング、ボルネオ島横断、オランウタンやコモドドラゴン・ツアー、カリマンタンやトラジャの民族を訪ねたインドネシアの祭りを体験するツアーのほか、撮影、社員旅行、研修旅行など、気軽に楽しめる旅から本格的な野外活動まで、幅広いツアーを行っています。

ツアー催行においては長年の経験があり、国内外に多数の顧客がいます。顧客にはハネムーン、中高年の方、映画制作者、研究者、写真家、登山家などさまざまです。アドベンチャーな旅だけでなく、有名な観光地であるバリやジョグジャカルタなどでも観光ツアーを行っています。

われわれ自身が旅行者であり、冒険家です。アドベンチャー・インドネシアの社長兼会長であるモンテイ・ソロンガンはかつて、ネパールとチベット両サイドからエベレストに山頂を成功させました。この功績によりインドネシア大統領からメダルを授与されました。また、1996年から2003年には在インドネシア・ネパール観光局で広報を務めました。インドネシアで唯一の公式な旅行業界団体であるインドネシア旅行業協会 (ASITA) では自然観光部門のディレクターとしても活躍していました。

インドネシア旅行業協会 (ASITA)、アジア太平洋旅行業協会 (PATA)、日本旅行業協会 (JATA, 会員番号1814) の会員です。ジャカルタとバリのほか、カリマンタン (ボルネオ)、パプアのワメナ、スラウェシのトラジャ、フローレスのラブアンバジョに事務所があり、ツアーはすべて自社で行っています。海外の旅行会社からも信頼できるインドネシア現地の旅行会社として認められています。



ジャカルタ

ジャカルタはインドネシアの首都で、ジャワ島の北西に位置しています。ジャワ、マレー、中華、アラブ、インド、ヨーロッパが融合した多宗教多文化が特徴です。古き町を意味するコタトゥアは旧市街地でオランダ時代に建てられた建物があります。グロドックはジャカルタの中華街、スダクラバ港では伝統的なスクーター船がご覧いただけるでしょう。ジャカルタは多くの歴史的建物や博物館もあり、観光地としても魅力的な都市です。



バリ島

バリ島にご滞在中、以下のように多くの手配が可能です。:

観光

バリ島で多くの観光の手配が可能です。下記のツアーはご参考までにご案内致します。この他にもご希望のツアーがありましたら、ご相談下さい。

タナロット寺院サンセットツアー（5時間）

このツアーはメングウィ王国の遺産で、バリ島で最も美しい寺院と言われる「タマン・アユン」を含むツアーです。アラス・ケダトン（サル森）、夕日美しいタナロット寺院に訪問します。

ウブドアート村とサル森ツアー（5時間）

このツアーは多くのウブドの画家たちが暮らしている村に向かいます。初めに伝統的なパティックの生産プロセスと織物の生産工程を見学します。その後、チェルクという金・銀手芸生産村、パトゥアンというバリ伝統的な家がある場所、マス村という有名な木彫り生産村を訪れます。ツアーの終わりにはサルが息しているサル森にも立ち寄ります。

バリ人の心を感じるツアー（5時間）

この特別なバリツアーはバリの日常生活を見て頂く為、バリの村に訪問します。パトゥアン村という多くのバリの伝統的な家がある村に訪問し、米畑テラスがあるブキト・ジャテイ丘に美しい景色を楽しめます。独特な入場ゲートと静かな雰囲気をもっているパングリプラン村に訪問します。また、13世紀に建てられたケヘン寺院やクルンクウングエリアにあるケルタゴサ裁判所にも訪問します。

東バリ島のツアー（8時間）

このツアーにはボナ村という竹の家内工業センター、百羽以上のコウモリが住んでいるラーワ洞窟（コウモリ洞窟）にある寺院、観光客が訪れることの少ないテンガン村、かつて、現地の王様のプールだったティルタ・ガンガプールを訪れます。広いサラク（スナック果物）畑と美しい米畑があるセラト村も通ります。

ラフティング

多くのラフティングのプログラムが手配出来ます。下記のツアーはご参考までにご案内致します。

アユング川ラフティング

バリ島で人気のあるラフティングはアユング川でのラフティングです。豊かな熱帯雨林の中、滝を眺めたり、泳いだり、川のエコロジーについての説明も受けることが出来ます。



テラガワジャのラフィティング

テラガワジャのラフィティングはバリ島の東エリアのアグング山の麓からスタートします。アユングン川と同様に熱帯雨林の中のラフィティングを楽しみながら、最後は落差のところを通ります。

サイクリング

多くのサイクリングプログラムの手配が可能です。下記のツアーはご参考までにご案内致します。

バトゥル山のバイクトレイル (火山サイクリング) 昼食付き

参加可能年齢 7～60歳 キンタマニにあるバトゥル山の麓よりスタートし、バリの村、お寺、熱帯畑、米畑などをご案内します。素朴なバリの暮らしも感じて頂けることでしょう。

ジャティルウィのサイクリング 昼食付き

世界遺産ジャティルウィに案内します。美しい米畑テラスの景色をお楽しみ頂けます。

ダイビング・スノーケリング

多くのダイビング・スノーケリングプログラムの手配が可能です。下記のツアーはご参考までにご案内致します。

ヌサドゥアダイビング・スノーケリング

バリの南エリア (ヌサドゥア、タンジュンベノア、サヌール、クタ、ジンバラなど) にご滞在の場合は、ヌサドゥアダイビングサイトがお勧めです。ダイビングスポットへは約5～10分と近く、非常にアクセスがよいところです。これからダイビングをはじめたい方、初心者ダイバー、リフレッシュダイバーなどにお勧めです。また、美しい珊瑚やカラフルな魚が生息していますのでスノーケリングも楽しめます。

トゥランベンダイビング・スノーケリング

トゥランベンはレックダイビングで有名です。ここにはU.S.A.Tリパティ号が沈んでいます。U.S.A.Tリパティ号は第二次世界大戦中に日本の潜水艦の魚雷を受けました。多くの美しい珊瑚や魚たちに囲まれて、ダイビングやスノーケリングをお楽しみ頂けます。

トレッキングツアー

a. バトゥル山 (活火山) のトレッキング (海拔1,717メートル)

午前2時にホテルを出発します。海拔1,200メートルのエリアに向かい、その後、日の出を観察するため、約1.5～2時間かけて海拔1,717メートルにトレッキングします。日の出観察、火山円錐丘のトレッキング、最後の噴火した噴火口観察をします。山頂での朝食も格別です。

b. アグン山のトレッキング (3,142メートル)

アグン山はバリ島で1つの活火山です。1963年に噴火したので、溶岩が流れて東バリエリアに多くの損害がありました。アグン山はバリ島で最も高い山で神様の住居として、バリヒンドゥーの人々からは神聖な山と崇められています。23時30分頃にホテルを出発し、ガイドと一緒に山の麓から約6時間のトレッキングです。午前6時ごろ頂上に到着します。天候が良ければ、日の出やバリ島の美しい景色をご覧頂けるでしょう。ミネラルウォーター、朝食、懐中電灯は現地で用意します。下山には約4時間かかり、昼食後、ホテルに戻ります。



ジョグジャカルタ

ジョグジャカルタはサンスクリット語の「アヨディア」に由来しています。アヨディアとはヒンドゥー教の叙事詩ラーマヤナの王国の首都です。クラシックなジャワ文化とジャワ美術の中心地で、バティック、バレー、ドラマ、伝統的な音楽、詩、人形芝居などが発展しています。世界的に有名なボロブドゥール遺跡、プランバナ寺院、宮殿など魅力的な観光地があり、インドネシアで二番目に重要な観光地になっています。

ジョグジャカルタで多くの観光の手配が可能です。下記のツアーはご参考までにご案内致します。この他にもご希望のツアーがありましたら、ご相談下さい。

ジョグジャカルタ市内観光

市内にある文化遺産を訪問、地元のお料理を堪能し、伝統的な演奏を鑑賞します。

ボロブドゥール遺跡にて日の出ツアー

ホテルを早朝出発します。到着後、「アルパダトゥ」というボロブドゥール遺跡の頂上まで登り、日の出を待ちます。日の出とともに景色をお楽しみ頂けることでしょう。ボロブドゥール遺跡を見学し、仏の哲学を学びましょう。

ラトゥボコ遺跡にてサンセットツアー

丘陵地にあるマタラム王国の王宮跡・ラトゥボコ遺跡を訪問します。コーヒーやお茶を飲みながら、ラトゥボコ遺跡のテラスにてサンセットを待ちます。

プランバナ寺院にてラーマヤナ舞踊鑑賞

世界遺産プランバナ寺院にてジャワの伝統芸能「ラーマヤナ舞踊劇」を鑑賞します。ラーマヤナ舞踊は古代インドの大長編をジャワ文化と音楽を融合させたものです。遺跡を背景にこの場所でのラーマヤナ舞踊劇鑑賞は格別です。

ジョグジャカルタの溶岩ツアー

地球上で最も活発な火山の一つのメラピ山。インドネシア語で「火の山」です。メラピ山の麓で火山跡をジープで巡るツアーです。

ディエン高原ツアー

標高2,000mのディエン高原は古くからジャワ島の山岳信仰の場所とされています。ジャワ島の火山帯に位置するため、クレーター観察が出来ます。ヒンズー寺院群の見学も楽しみです。

料理クラス

地元の人からインドネシア料理またはジャワ料理を習い、一緒に楽しい時間を過ごしましょう。

ソロ市内ツアー

ジョグジャカルタから約63キロメートルのソロに向かいます。古都ソロはジャワ王宮の中心として栄えたジャワ文化では非常に重要な街です。ソロ王国宮殿や寺院を訪れます。バティックの伝統工芸や伝統舞踊や人形劇なども有名な街です。

バティック制作体験

ジョグジャカルタにあるバティックワークショップで美しいバティック制作の過程を見学後、制作体験をします。



サンプルスケジュール

ジョグジャカルタ文化・ルアクコーヒーツアー

第1日目：ジョグジャカルタ到着
ジョグジャカルタ空港に到着後、ガイドがホテルへ送迎します。

第2日目：パーム籐生産地/ボロブドゥール遺跡
朝食後、西ジョグジャカルタにあるクロンプロゴ区のパーム籐の生産地を訪れ、生産過程を見学します。その後、ボロブドゥール遺跡を訪れます。ボロブドゥール遺跡ではレリーフ通り、仏の哲学を学びます。パオン寺院やムドゥッ寺院に見学後、ホテルに戻ります。

第3日目：市内観光/ルアクコーヒー/ブランバナナ寺院
朝食後、ジョグジャカルタ市内観光をします。ジョグジャカルタ王宮、タマン・サリ「水の宮殿」とも呼ばれるスルタンの離宮を訪問します。その後、パティック工房やルアクコーヒーファームに向かいます。ルアクコーヒーはジャコネコの糞から採取される未消化のコーヒー豆のことです。コーヒーノキの熟した果実を餌として食べますが、果肉は栄養源となり消化されますが、種子であるコーヒー豆は消化されずそのまま排泄されます。その糞の中からコーヒー豆を取り出して、洗浄、乾燥後、高温で焙煎し、貴重なコーヒー豆になります。午後はブランバナナ寺院に観光し、ホテルに戻ります。

第4日目：メラピ火山/空港
朝食後、メラピ山の麓で火山跡をジープで巡るツアーです。噴火跡や絶景ポイントを訪れます。その後、空港へ向かいます。



コモドドラゴン

コモドドラゴンは「ドラゴン」という名前ではありませんが、実際は巨大なオオトガケです。体長3メートル、重さは140キロ以上にもなります。その祖先は50万年ほど前には地上の各地を歩き回っていたと考えられていますが、現在は世界中でコモド諸島にしか生息していません。

コモド諸島はスンバワ、フローレスの両島の間にあります。大小175の島々から成り、コモドドラゴンはコモド島とリンチャ島に生息しています。

コモドドラゴンは保護動物、コモド諸島は国立公園に指定されています。コモド諸島にはコモドドラゴンのほか、鹿やイノシシ、珍しい鳥などが生息しています。約90%の場所に人は住んでいませんが、わずかに人の住むコモド島の漁村でもコモドドラゴンは魚を捕り、ヤギや鹿を食べるほか人を襲うこともあるので、レンジャーの案内のもと観察します。

ツアーはフローレス島のラブアンバジョからスタートします。そこからコモド島まで船で約3時間です。コモド島ではコモドドラゴンの餌付けポイントだったバヌングルンまでトレッキングします。海岸から約20分です。

コモド島の近くの島々も訪ねます。コモド諸島の海は、海を愛する人々にとって失われた楽園のようです。海底にはサンゴ礁の花園が広がり、深い海流に乗った魚の群が尽きることなく泳いでいます。マンタ、サメ、ウミガメ、イルカ、ジュゴン、タツノオトシゴ、アンコウなどが生息しています。そそり立つ岩壁、平原、丘、洞窟など、海底の地形は変化に富んでいます。なだらかなサンゴ礁から真逆さまに落ちるドロップオフがあり、北のフローレス海から南のインド洋まで色、大きさ、種類の異なるサンゴ（ハードコーラルとソフトコーラル）に彩られています。スキューバダイビングでもスノーケリングでも色鮮やかな海の世界を楽しめます。

サンプルスケジュール/コモドドラゴンツアー（2泊3日）

第1日目：バリ空港/ラブアンバジョ港（フローレス島）/リンチャ島/カロン島

バリ島からフローレス島のラブアンバジョ空港に到着後、船で約1時間半のリンチャ島に向かいます。リンチャ島でコモドドラゴンや野生動物を観察します。夕方、ねぐらに帰るコウモリの大群が現れるカロン島に向かいます。〔船中泊〕

第2日目：カロン島/コモド島/ラブアンバジョ

カロン島からコモド島へ向かいます。コモド島のバヌングルンまでトレッキングをして野生のコモドドラゴンを観察した後、「ピンクビーチ」と呼ばれるピンク色の砂浜でスノーケリングをします。色鮮やかなサンゴ礁やお楽しみ頂けることでしょう。〔ラブアンバジョのホテル泊〕

第3日目：バトゥ・チエルミン〔鏡の岩〕鍾乳洞/ラブアンバジョ空港/バリ空港

バトゥ・チエルミン鍾乳洞の中を探検します。その後、ラブアンバジョ空港から出発します。



フローレス

バリの東側の位置するフローレス島へは、デンパサールからわずか2時間のフライトで到着します。フローレスでの冒険は空港のあるマウメレからはじまります。急峻な山と渓谷を流れる川、緑濃い森、サバンナの続く平地があり、この地では全ての対立するものが均衡を保って存在することで世界が成り立っているようです。男と女、老いたものと若いもの、生と死、白と黒。この調和の概念を反映したものとして、バジャワでは一族の男性の祖先の象徴であるバーガという祭壇を見ることができます。

サンプルスケジュール

第1日目から第3日目：バリ島/マウメレ/モニ/エンデ
マウメレへのフライト時刻にあわせて、バリ島のホテルへお迎えに行きます。翌日から美しい山々を越える旅に備えて、フローレス島最大の町マウメレで1泊します。翌朝イカット織の名産地シッカ村、ポルトガル時代1899年に建てられた教会、パガの美しい白砂のビーチなどを訪れながらウォロワルへ。ウォロワルにはフローレス東部で採れたカシューナッツが集まってきました。次の日は早朝からクリムトゥ山を目指します。神秘的色を変える三つの湖で有名なクリムトゥ山では、連がよければ素晴らしい日の出の景色が見られるかもしれません。次の目的地はモニです。モニはフローレスの伝統的な織物を作る村々を訪ねるウォーキングの起点となる村です。さらにエンデ地区では伝統的な工法で建てられた家屋を見ることができます。

第4日目から第6日目：エンデ/バジャワ/ルーテン/ラブアンバジョ

バジャワへ向けて美しい渓谷をドライブします。途中サンゴ礁の島々を見渡す素晴らしいビュースポットで休憩をはさみ、ソアへ。ソアは天然の温泉を湧くことで知られています。夕刻、海拔1,200mにある小さな町バジャワに到着します。バジャワ周辺には昔ながらの暮らしを守る素朴な時が止まったかのような佇まいの村々が点在しています。ソガダ人の集落では村の慣習や暮らしについて知ることができます。ルーテンへ向かう途中では、旅射状に広がるリンコと呼ばれる非常に珍しい水田の風景をご覧頂けるでしょう。

第7日目から第9日目：コモド/バリ島

旅の終わりはコモドドラゴンの島を訪れます。コモド島にあるコモドオオトガケの生息地でのトレッキング、リンチャ島では野生生物観察トレッキング、スノーケリング体験も楽しみです。9日目は飛行機でバリ島へ戻ります。バリ島到着後、ホテルへお送りします。

バリ島前後泊、バリ島でのツアー手配、空港送迎について本ツアー前後のバリ島の宿泊、バリ島でのツアー、日本からバリ島到着あるいは出発時の空港送迎も手配も可能です。



スンバ島

スンバ島はバリ島から南東へ空路約50分の東ヌサトゥンガラ州の小スンダ列島にある島です。スンバ島には巨石墳墓や高床式家屋が伝統的な手法で現在も造られています。古くからサンダルウッド（白檀）の栽培が盛んなほか、伝統的な織物イカット（絣）の産地としても知られています。また、サンダルウッドと並び、スンバの小柄で丈夫な馬は島の誇りです。

サンプルスケジュール

スンバ村ツアー

第1日目：タンボラカ空港/ワイカブバク
タンボラカ空港（西スンバ）到着後、ホテルに送迎します。昼食後、ワイカブバク近郊のブライジンとタロングとワイタル村を訪ねます。ワイカブバクの市場にも立ち寄ります。ホテルに戻り、アフタヌーンティーをお楽しみ下さい。（ワイカブバク/ホテル泊）

第2日目：ワイカブバク/ワインガプ/レンデ/ワインガプ
朝食後、137キロメートルに離れたワインガプ（東スンバ）に向かいます。途中、大きな石で作られたお墓とスンバ人の伝統的な家があるパスンガ村を訪ねます。ワインガプ到着後、ホテルにチェックインします。昼食後、パウとレンデ村へ約2時間のドライブです。大きな石から作られたお墓と伝統的な家があるパウとレンデ村を訪ねます。この伝統的な家の壁は牛の皮から作られました。パウとレンデ村にはスンバ織物工房があります。途中、メロロ村も通ります。ホテルに戻り、夕食をお楽しみ下さい。（ワイカブバク/ホテル泊）

第3日目：ワインガプ/空港
朝食後、フリータイム。その後、空港へ送迎します。



トラジャ

南スラウェシ州の州部マカッサルから北へ約328キロ行ったトラジャは「天上の王の大地」とも呼ばれています。トラジャの人々は自分たちの祖先が天上からこの山へ降り立たと信じています。人々はアニミズムを信じ、盛大な葬儀や風葬で知られる伝統文化を守っています。

トラジャの人々にとって、死は靈魂を解放する重要な出来事です。葬儀はお祭りで水牛を捧げて何日もかけて盛大に祝います。死者の亡骸は棺に入れ、岩壁をくり抜いて作った洞窟の中に収められます。洞窟の入り口は死者の人形で守られており、人形たちは高いバルコニーの上から生者の世界を眺めます。

ツアーでは、ランテパオから伝統的な村であるケテケスに向かいます。村の裏手には洞窟の墓があり、死者をかたどった人形が並んでいます。道路は舗装されていませんので、ジープに乗るか5-10月の乾期には歩いての観光になります。

比較的行きやすいのはレモとロンダです。レモの墓は岩をくり抜いたいくつもの洞窟があり、また、新しい洞窟も掘られています。ロンダはトラジャで最も古い墓の1つで貴族のものでした。バルコニーは死者の人形で埋まっています。ケロシンランプを持った村人の案内で墓の中を訪れることが出来ます。

パラワは小さな丘の上にある伝統的な村です。「トンコナン」と呼ばれる舟形住居が並んでいます。観光客が訪れるのは問題ありませんが、服装や席順、贈り物を持参するなど地元慣習を守らないといけません。バトゥトゥモンガはセセアン山（標高2,328メートル）の麓にある小さな村です。ホームステイできる家やカフェが数軒あり、棚田の広がる素晴らしい風景がご覧いただけます。バトゥトゥモンガから約6キロ離れた所にロコマタがあります。道路脇の岩壁は死者のマンションのようになっていて約60もの墓があります。パナから棚田やいくつかの村を通って、ティカラまで高原の美しい風景を楽しみながらトレッキングを楽しむことが出来ます。

サンプルスケジュール／トラジャの伝統文化を訪ねる

第1日目：バリ空港／マカッサル空港／ランテパオ
マカッサル空港に到着後、南スラウェシの海洋民族プギス人の伝統的な村や美しい風景を楽しみながらトラジャに向かいます。マカッサルからトラジャまで約8時間かかります。途中、パレパレで昼食をとります。夜、トラジャに到着します。（トラジャのホテル泊）

第2日目：トラジャ
午前中は王族の墓あるスアヤ、崖に木の人形タウタウが置かれているレモ、大木に掘られた幼児の墓があるカンピラを訪れます。棚田を望むレストランで昼食をとり、午後は自然の洞窟が墓になっているロンダ、伝統的な村ケテケスを訪れます。（トラジャのホテル泊）

第3日目：トラジャ
水牛の角が前面に飾られたトラジャの伝統的家屋であるトンコナンが見られるパラワ村、綿を紡いで布を織っているサダントバラナ村、海拔1,355メートルの高原にあって美しい風景が望めるバトゥトゥモンガ村を訪ねます。昼食後はロコマタ村を訪ね、パナからティカラまでトレッキングをします。（トラジャのホテル泊）

第4日目：トラジャ／マカッサル空港／バリ空港
朝食後、マカッサルへ向かいます。途中、昼食休憩後、マカッサル空港に到着します。



北スマトラのオラウータン、象、トバ湖

社会学者や文化人にとっては、北スマトラ芸術や文化の多様性はこの地を地上の楽園と呼べるのではないのでしょうか。古代バタックの王墓、独特の舞踊や儀式、美しい芸術工芸品など文化と伝統の詰まった宝箱のような場所です。

北スマトラ観光のハイライトは、急流のバホロク川に仕切られたようなレウセル山国立公園のオラウータンリハビリテーションセンター、のんびりとした田舎町、トバ湖です。

リハビリテーションセンターでは密猟から逃れたもののみならず、伐採や森林の伐採、土地の開発で棲み処を奪われたオラウータンに野生に戻って生きていくための術を教えています。センターでは1日2回オラウータンに会うことができます。餌台に置かれたバナナやミルクを求めて、木々の間をスイングしてやってくる彼らの楽しげな姿は一度見たら忘れることはできません。

世界で最も大きな国立公園の一つであるレウセル山国立公園は約120種以上の哺乳類、そして約400種もの鳥の生息地となっています。

メダンの南西66km、海拔1,400m程に位置し、避暑地として人気のブラスタギはカポ高原にある可愛らしい小さな町です。プランテーションと豊富な種類の花、野菜、果物（特にマルキッサと呼ばれるパッションフルーツ）の産地として有名です。

パラパットもトバ湖の端にある小さな町です。パラパットではトババタック族とシマルグンバタック族が生活しています。彼らの生き生きとした、また感傷的な愛の歌は良く知られています。この周辺は涼しくからっとした気候でリラックスして過ごすことができます。

サモシール島はトバ湖の真ん中に浮かぶ、面積およそ600km²の島です。パラパットからは船で約30分です。トババタック族の発祥の地と言われています。トモック、トゥックトゥック、シアラガン、アンバリタなどの村を訪れて伝統的なトババタックの住居、舞踊を見ることができます。



ムンタワイ諸島

ムンタワイ諸島は西スマトラ州にあり、約70の島々で構成されています。最も大きな島はシベルト島で他の主要な島がシボラ、南バガイ、北バガイなどです。この島々は近年になるまでアクセスが難しかったため、隠遁されたエリアになっていました。シベルト島はたくさんの緑に囲まれ、美しい白砂の海岸があります。スノーケリングも楽しみです。シベルト島は伝統的な狩猟採集の生活をするムンタワイ族が暮らしています。ムンタワイ族と一緒に時間を過ごしてみませんか。

サンプルスケジュール

ムンタワイ族のツアー

第1日目：パダング

パダング空港到着後、ホテルへ向かいます。（パダング/ホテル泊）

第2日目：パダング/シベルト

早朝、ムアラ港からムアラシベルトにボートで向かいます。朝食は船内にて。午後2時頃、ムアラシベルト着後、昼食になります。昼食後、小さいボートで約2時間、徒歩で約1時間歩き、ドロゴトまたはサゴ村に向かいます。（シベルト/民家泊）

第3日目：ムンタワイ族の村に滞在

朝食後、ムンタワイ族の日常生活（狩りや魚釣りやサゴ採りなど）をみせてもらいます。サゴはムンタワイ族の主な食べ物です。運が良ければ、ムンタワイ族の伝統的な儀式、踊りをご覧いただけることでしょう。（シベルト/民家泊）

第4日目：他のムンタワイ族の村に訪問

朝食後、約2時間歩き、隣の村（サカリオ村）に向かいます。この村にも狩り、魚釣り、サゴ採りなどのムンタワイ族の日常生活をみせてもらいます。（シベルト/民家泊）

第5日目：ムンタワイ族の村/ムアラシベルト/パダング
朝食後、ムンタワイ族の村から徒歩約1時間、小さなボートで約2時間かけてムアラシベルトへ向かいます。午後3時頃、ムアラシベルトからパダングにあるムアラ港へ約3時間から3時間半かけてボートで向かいます。（パダング/ホテル泊）

第6日目：パダング

フライト時間にあわせてホテル発、空港へ向かいます。



オランウータン

伝統的な木造船でカリマンタンの川をさかのぼり、タンジュンブティン国立公園を訪ねます。オランウータンをはじめ、絶滅の危機に瀕した珍しい動植物が見られます。

キャンプ・リキーにあるオラウータンのリハビリテーション・センターでリハビリを終えたばかりのオラウータンやセンター近くを散策するうちに野生のオラウータンに出会うこともあるでしょう。

静かな川を船でゆっくりと上がっていきます。川の両岸の木々の上ではテングザルや鳥たちが遊んでいるのがご覧いただけることでしょう。

船での宿泊も快適です。船内のゲスト用に清潔なマットレス、枕、蚊帳が用意されています。船にトイレのほか、キッチンもあります。食事はすべて船のクルーが準備します。朝は生き物たちのコーラスで目覚め、夜は自然に包まれて眠ります。ホテルのシーズンではクリスマスツリーのようになった「ホテルの木」の観察も楽しみです。

タンジュン・パラパン近くの川沿いのロッジで宿泊することもできます。（ロッジ宿泊の場合は別料金となります）

サンプルスケジュール／オラウータン2泊3日ツアーの旅

第1日目：パンカランブン空港（カリマンタン）／クマイ／タンジュンブティン国立公園

パンカランブン空港に到着後、車でクマイの船着場に向かいます。ガイドとともに「クロトック」と呼ばれる伝統的な船に乗り込み、タンジュンブティン国立公園内を流れる川をさかのぼって奥へと入って行きます。夜は川の上に停泊またはロッジ泊となります。（船中またはロッジ泊）

第2日目：タンジュンブティン国立公園

停泊した場所から、川をさらに2時間ほどさかのぼり、オラウータンがいるキャンプ・リキーに上陸します。ガイドやレンジャーとともに熱帯林を散策し、野生のオラウータン、テングザル、マカークザル、珍しい鳥や花などを観察します。船で昼食後、オラウータンの餌づけ場所を訪れます。（船中またはロッジ泊）

第3日目：タンジュンブティン国立公園／クマイ／パンカランブン空港

朝食後、クマイまで戻り下船します。車に乗り換えてパンカランブン空港に向かいます。



ブナケン/マナド

北スラウェシはアウトドア派におすすめのエリアです。州部マナドは18キロの海岸線を持ち、丘陵と活火山に囲まれたワイルドな自然が多く残るエリアです。特にスキューバダイビングは大変おすすめです。ブナケン海洋公園のサンゴの美しさ、パンカ海峡に現れる魚の大群、サンギへ諸島の海中火山、レンベ海峡の珍しい生物など変化に富み、世界屈指の水中世界を堪能することができます。

陸でのアクティビティはタンココ自然保護区とドウモガボネ国立公園で熱帯雨林ハイキングです。タンココ自然保護区には世界最小の霊長類タルシウスやクロザルが多数生息しています。またドウモガボネ国立公園は絶滅が危惧されるイノシシ科の動物バビルサの生息地となっています。火山や滝など自然の造形観察やリバーラフティングも体験できます。

トモホン・トンダノのミナハサ高地エリアでは水田、ココナッツのプランテーション、花の咲き乱れる庭園では多くの鳥観察も楽しみです。セレベスツカヅクリ、サンフォードヒメヒタキ、シロビタイカササギビタキ、タリアブメンフクロウ、スラウェシアカコブサイチョウなどバードウォッチャーの憧れの鳥たちの棲み処であり、バードウォッチングには最適です。

ミナハサで楽しめるアクティビティはハードな火山トレッキング、ホワイトウォーターラフティング、ロッククライミングなどがあります。さわやかな気候、新鮮な空気の中でただのんびりと自然を満喫するものも良いかもしれません。このエリアは観光地化がそれほど進んでいませんが、快適なレベルの宿泊施設が整っています。

サンプルスケジュール

第1日目：到着/メナド

サムラトランギ空港でガイドがお出迎え、ホテルまでご案内します。明日から旅に備えてゆっくり休んでください。

第2日目：ブナケン島終日ダイビング

朝食後、港からブナケン海洋公園に向けて出発します。インストラクターとダイビングで素晴らしい海中世界をお楽しみください。昼食は船上で。午後は市街に戻り、ホテルまでお送りします。

第3日目：ミナハサ高原ツアー

ホテルで朝食後、陸路高原エリアのトモホンへ。伝統的なミナハサの家屋を作っているウォロアンを訪れます。細かい木材から作られるのはお土産でもアート作品でもなく組み立て式の木造住宅です。ミナハサの中心地トンダノへ。トンダノは古い小さな町で昔ながら馬車に乗り素晴らしい棚田の風景を見に行くことができます。昼食はトンダノ湖上レストランで。昼食後は刻々と色を変える硫黄臭の蒸気を噴き上げるリナウ湖とその周辺の自然を満喫し、マナド市内へ戻ります。マナド泊。

第4日目：出発

朝食後、ホテルから空港まで送迎します。



パプア

バリエム渓谷には太古の昔からほとんど変わらぬ暮らしを続けるダニ族、ヤリ族、ラニ族等の集落があり、森を通り、山を越えていく冒険が体験できる素晴らしい場所です。バリエム渓谷は海拔約1,600のグランドバレーと呼ばれる高地に幅15キロメートル、長さ60キロメートルに渡って広がり、西方は聳え立つ2,500～3,000メートルの山々に囲まれています。そのため日中の平気気温26℃に対し、夜間は12℃と温度差がかなりあります。

ツアーではトレッキングでバリエム渓谷南部に位置するダニ族の集落を訪問し、ほぼ裸で石器時代そのままの生活を送る人々に出会います。トレッキングはアップダウンのあるルートで川を渡り、足元の悪い所もありますので体力的には中～上級向けです。バリエム渓谷まではパプアの州部ジャヤブラへ飛び、乗り継ぎで約45分のフライトでパプアの中央高地へ入り口となるワメナへ入ります。

バリエム渓谷フェスティバル

バリエム渓谷フェスティバルではこの壮大な渓谷エリア一帯に暮らす部族、民族が一堂に会します。全ての部族から代表者が派遣され、各部族の特産品、コテカ、美術工芸品なども持ち寄られます。このお祭りは西パプアの奥地に点在するそれぞれの部族居住地まで大変な思いをして訪れることなく、彼らの独自の風習や文化について知ることができる貴重な機会です。

アスマット族

フラミンゴベイを経由してアスマット族の居住地を目指し、彼らの生活ぶりを見せてもらいます。湖沼の水際に高床式の家を建てて住むアスマット族の生活区域へは徒歩で入ることはできません。主な移動手段はカヌーです。

かつて行われていた首狩りの風習でよく知られているアスマット族ですが、木彫り美術品、工芸品のデザインやその精巧さにおいても世界にその名を知られています。アスマットの木彫り作品のデザインやモチーフは彼らの精神世界と密接な関係があり、それゆえに単なる装飾品ではありません。戦闘、首狩り、それらに明け暮れていた戦士である彼らの先祖たちへ崇拜の念が表された独創的なアートであり、世界のコレクターや美術館が求めてやまないプリミティブアートの最高峰なのです。

アスマット族の主食はサゴでその地は貝類、カタツムリ、サゴヤシの朽木に産みつけられる脂肪分に富んだ幼虫なども採って食料としています。この幼虫は太鼓の拍子や呪術的な踊りの中、時には二週間にも渡る饗宴のご馳走でもあります。

アスマット族居住地ではアスマット博物館、主食サゴの精製工程や魚やエビの漁法の見学、太鼓や儀式歌、カヌーレースなどを楽しめます。





コロワイ族・コンバイ族

コロワイ族、コンバイ族のエリアはアスマット族のすぐ隣ですが、彼らの居住地は二つの大きな川と北側にある山で隔てられています。深い熱帯雨林を抜けコロワイ族またはコンバイ族の集落へ旅が始まります。素朴なカヌーのパドルを漕いで川を渡り、沼地へ分け入り、倒木をよけてのトレッキングが続きます。荷物、食料、その他のキャンプ用品は現地ポーターが運びますが、地上9～25メートルの木の上に家を作って暮らしているコロワイ族またはコンバイ族に出会えるまで毎日約6～7時間のトレッキングとなります。コロワイ族もコンバイ族も食料を求めて移動し、狩猟と採集の生活を送りますが、木の家は3年に1度新しく建てられます。彼らは神や聖霊と自分たちの一族や所属集団との関係を新しく結びなおす儀式を行います。

この時にはご馳走を用意し、晴れ着を着た人々が踊ります。

彼らの普段の生活のサゴなどの食料集め、釣り、狩り、鳥や豚用のワナを仕掛ける等の体験もしましょう。新しい家が建てられている時は、建築の様子を見ることも出来るかもしれません。



ラジャアンパット・西パプア

ラジャアンパットは「4人の王様」という意味があります。パプア島の北西に位置し、4つの主要な島、約1,500の小さな島々で成り立っています。この4つの主要な島はミソール、コフィアラワティ、パタンタ、ワイゲオ島です。魚は約1,200種類、軟体動物類は699種類、コーラルは600種類とも言われ、驚異的な生物多様性を持つダイバー憧れの地です。コフィアウ島というダイビングスポットには約284種類の魚が集まるとも言われています。



カルステンツ・パプア

熱帯の密林、雪と氷の山

当社は7大陸最高峰のひとつであるパプアのカルステンツ・ピラミッド（海拔4,884メートル）登山を1998年から直接、運営しています。カルステンツ登頂を手がけた最初のツアー手配会社として地元で強力なネットワークを持っています。パプアを知り尽くしており、難しいとされている地元のポーターたちとの交渉や管理も得意としています。登山成功、

5つの理由

- 1.当社はパプアで正規の事業許可を得ており、パプアでの事業活動は合法です。
- 2.カルステンツ・ピラミッド登頂は非常に手配が難しく、登頂を成功させるには十分な経験、熟練したスタッフ、努力と献身、地元との強いネットワークが必要です。熟知したスタッフを配置し万全を尽くします。
- 3.個人での請負とは違い、当社は会社組織としてガイド、登頂リーダー、コック、事務員、飛行機とホテルの予約スタッフ、ツアー・マネジャー、ポーター、運転手ら全員がチームとなりサポートします。登頂の成功と無事の下山という、ただ1つの目的に向かって全員が力をあわせます。
- 4.当社は地元の人々を雇用し、地元の人々と良好な関係を築いています。地元の人々の協力を得ることで、登頂成功の確率を高くし、トレッキングをできる限り安全なものとしします。
- 5.正規の事業許可を得ているため、カルステンツ・ピラミッド登山だけでなく、パプア内の他の登山やツアーの手配も可能です。



サンプルスケジュール

メルバブ山・メラピ山・ジョグジャカルタ

第1日目：ジョグジャカルタ／セロ

夜22時頃、ジョグジャカルタのホテルを出発し、海拔1,500メートルのメラピ山の北にあるセロ村のベースキャンプに向かいます。（セロ村／ホームステイ休憩）

第2日目：セロ／メルバブ／セロ

深夜、メルバブ山へ約6時間のトレッキングです。メルバブ山のシャリフ頂上で日の出鑑賞をします。天候が良ければ、メラピ山も見えることでしょう。その後、約4時間のトレッキングでセロ村に戻ります。次の日のトレッキングため、十分な休憩をとりましょう。（セロ村／ホームステイ泊）

第3日目：セロ／メラピ／ジョグジャカルタ

深夜1時頃、メラピ山へ約4時間のトレッキングをします。パスル・ブプラでは日の出鑑賞をしましょう。その後、約3から5時間かけて下山します。メラピ山の麓に到着後、ジョグジャカルタのホテルに向かいます。



サンプルスケジュール

ケリンチ山トレッキング

第1日目：パダング／ケルシコ・トゥオ村
パダング到着後、ケルシコ・トゥオへ約7から8時間のドライブです。途中、ディアタス湖、ディバワ湖、ミナングカバウ村、カユ・アロにある茶園を通ります。ケルシコ・トゥオに到着後、（ケルシコ・トゥオ村／ゲストハウス泊）

第2日目：ケルシコ・トゥオ村／ケリンチセブラト国立公園のゲート/SHELTER II（キャンプ）
早朝の朝食後、ケリンチセブラト国立公園のゲートへ向かいます。SHELTER IIへ約6時間のトレッキングをします。昼食と夕食はガイドチームが用意します。（SHELTER II／テント泊）

第3日目：SHELTER II／ケリンチ山の頂上/ケルシコ・トゥオ村
朝食後、頂上まで約3から4時間のトレッキングをします。天候が良ければ、頂上では素晴らしい景色がご覧いただけることでしょう。その後、SHELTER IIに戻り、昼食になります。ケルシコ・トゥオ村までは約3から4時間のトレッキングをします。（ケルシコ・トゥオ村／ゲストハウス泊）

第4日目：ケルシコ・トゥオ/パダング
朝食後、パダング空港へ向かいます。



サンプルスケジュール

リンジャニ山トレッキング

第1日目：ロンボク／スングギ
ロンボク空港に到着後、スングギ海岸へ向かいます。（スングギ／ホテル泊）

第2日目：スングギ／センバルン／ベースキャンプIII
午前5時頃に出発、センバルンへ約2時間半のドライブです。ベースキャンプIIIまでハイキングします。景色の美しいセガラアナク湖もお楽しみ頂けるでしょう。（ベースキャンプIII／テント泊）

第3日目：ベースキャンプIII／リンジャニ頂上／セガラアナク
午前2時頃、リンジャニ山の頂上(海拔3,726メートル)へトレッキングをします。天候が良ければ、頂上では湖、山、島の美しい景色や日の出が観察できることでしょう。ベースキャンプIIIへ下山後、朝食になります。その後、セガラアナク湖に向かいます。セガラアナク到着後、温泉もお楽しみ頂けます。（セガラアナク／テント泊）

第4日目：セガラアナク／セナル村／スングギ
朝食後、セナル村へトレッキングをします。黒ザルや花の観察も楽しみです。セナル到着後、スングギ海岸にあるホテルへ向かいます。（スングギ／ホテル泊）

第5日目：スングギ
朝食後、空港に向かいます。



サンプルスケジュール

タンボラトレッキング (パンチャシラ北まわり経由)

第1日目：ビマ/ケディンディ
ビマ空港到着後、のケディンディゲストハウスへ約4から5時間のドライブです。(ケディンディ/ケディンディゲストハウス泊)

第2日目：ケディンディ/パンチャシラ/POST 3 へトレッキング
朝食後、パンチャシラベースキャンプ(海拔467メートル)へ約15分で到着します。その後、森ゲートまでオートバイで約30分です。森ゲートから1地点まで約2時間のトレッキング、地点2までに約2時間のトレッキング、POST 3 まで約3時間のトレッキングをします。
(POST 3/テント泊)

第3日目：POST 3/タンボラ山の頂上/POST 2
午前1時頃、タンボラ山の山頂へ約6時間のトレッキングです。POST 3 からPOST 5 のエリアではイラクサという有毒植物に注意が必要です。POST 5 周辺では野生の豚や鹿などに遭遇するかもしれません。日の出観察後、POST 3 まで下山し、朝食となります。その後、POST 2 まで下山します。POST 2 の近くの川で洗濯ができます。(POST 2/テント泊)

第4日目：POST 2/パンチャシラ
POST 2 を出発、POST 1 まで約2時間、POST 1 から森ゲートまで約2時間のトレッキングです。森ゲートからはオートバイでパンチャシラベースキャンプに向かいます。途中、植民地時代につくられ放置されたコーヒーファームや噴火後に失われた文明の考古学的な発掘場所や噴火後も残った古いヒンズー寺院などに立ち寄ります。(パンチャシラ/パンチャシラゲストハウス泊)

第5日目：パンチャシラ/サトンダ/ビマ
朝食後、ナンガミ口海岸からボートにてサトンダ島へ向かいます。サトンダ島ではハイキングとスノーケリングが楽しめます。午後、サトンダ島からビマへドライブです。(ビマ/ランビトゥホテル泊)

第6日目：ビマ
朝食後、ビマ空港へ向かいます。



サンプルスケジュール

セメル山・プロモ山・イジェン山への旅

第1日目：スラバヤ空港／トゥンパ／ラヌパネ
スラバヤのジュアンダ国際空港に到着後、トゥンパ村に向かいます。健康診断を受けた後、4WDジープでグブククラカーとンガダス村を經由し、ラヌパネ村(海拔2,200メートル)へ約2時間から2時間半のドライブです。ラヌパリ村到着後、ホームステイ1泊です。(ラヌパネ／ホームステイ泊)

第2日目：ラヌパネ／ラヌクンボロ／カリマティ
朝食後、ラヌクンボロ(海拔2,400メートル)へ約4から5時間のトレッキングをします。ラヌクンボロ到着後、ラヌクンボロ湖の景色を楽しみながら昼食となります。ロオロオンボサバナとチェモロカンダング松林とジャンバンガン森を通り、カリマティ(海拔2,700メートル)へ約2時間半から3時間半のトレッキングをします。カリマティキャンプサイト到着後、夕食をお楽しみ下さい。(カリマティキャンプサイト／テント泊)

第3日目：カリマティ／セメル山頂上／ラヌクンボロ
深夜、軽食後、セメル山頂上(海拔3676メートル)へ約4から6時間のトレッキングをします。天気が良ければ、美しい日の出が観察できます。頂上では写真撮影やティータイムをお楽しみ下さい。カリマティキャンプサイトに戻り、遅い朝食になります。朝食後、ラヌクンボロに向けて下山します。ラヌクンボロに到着後、昼食になります。(ラヌクンボロ／テント泊)

第4日目：ラヌクンボロ／ラヌパネ／チェモロラワング
朝食後、ラヌパネ村に向けて約4時間のトレッキングをします。到着後、昼食になります。昼食後、ジープでチェモロラワングに約1時間半から2時間のドライブです。天気が良ければ、幻想的なプロモ山の砂漠がご覧いただけることでしょう。チェモロラワングに着後、夕食は自由食となります。ご希望者はガイドがご案内します。(チェモロラワング／ラバ ビューホテルまたは同等クラス泊)

第5日目：プロモ山の日の出観察／イジェン
午前3時頃、ジープでテンゲルカルデラのペナンジャカン山に向かいます。この場所はプロモ山とセメル山が背景となり、天候が良ければ美しい日の出が期待できるでしょう。その後、245階段に登り、プロモ山のカルデラに向かいます。ホテルに戻り、朝食や休憩時間をとります。プロボリングとボンドウォソを經由し、イジェンエリアに向かいます。(イジェン／ホテル泊)

第6日目：イジェン山／バリ
早朝の朝食後、イジェン山に向かいます。イジェン山は世界でも有数の高酸性火口湖を持つ火山として知られており、硫黄ガスが青い炎を出して燃えることから、「ブルーファイア・クレーター」と呼ばれています。イジェン噴火口の直径は約1キロメートル、深さは約175メートルです。この噴火口の周りはミネラルや水を保つため、オランダ時代にダムが建てられました。下山後、専用車でケタパング港に向かいます。ケタパング港からバリ島のギリマヌコ港までフェリーで渡ります。到着後、ホテルに向かいます。(バリ島／ホテル泊)



サンプルスケジュール

アルジュノ・ウェリラング・プロモ・イジェン山トレッキング

第1日目：スラバヤ／トレテス／レンバキジャング
朝食後、トレテスへ約2時間のドライブです。着後、レンバキジャングキャンプサイトに向けて約5時間のトレッキングです。（約3時間のトレッキング後、コプロパンにて昼食となります。昼食後、約2時間のトレッキングキャンプサイトに到着します。）キャンプサイトにて夕食です。（レンバキジャングキャンプサイト／テント泊）

第2日目：レンバキジャング／ウェリラング頂上／レンバキジャング
午前3時頃、ウェリラングの頂上へ約2時間のトレッキングです。日の出観察後、レンバキジャングキャンプサイトに戻ります。このキャンプサイトでは鹿が息していますので、遭遇することもあるかもしれません。

第3日目：レンバキジャング／アルジュノ山頂上／ラワング茶園／プロモ山
朝食後、アルジュノ山の頂上へ約4時間のトレッキングをします。頂上に到着後は写真撮影や景色をお楽しみ下さい。下山はラワング茶園を経由します。その後、プロモ山へ約2時間のドライブです。（チェモロラワング／ホテル泊）

第4日目：プロモ山ツアー／イジェン
午前4時頃、ペナンジャカン山に向かいます。天候が良ければ、ペナンジャカン山では美しい景色と日の出が観察できることでしょう。プロモ山の噴火口も訪れます。その後、ホテルに戻り、朝食や休憩となります。ホテルを出発し、プロボリングとボンドウォソを経由し、イジェン山に向かいます。（センポル／ホテル泊）

第5日目：イジェンエリア／スラバヤ
早朝の朝食後、イジェン山に向かいます。イジェン山は世界でも有数の高酸性火口湖を持つ火山として知られており、硫黄ガスが青い炎を出して燃えることから、「ブルーファイア・クレーター」と呼ばれています。イジェン噴火口の直径は約1キロメートル、深さは約175メートルです。この噴火口の周りはミネラルや水を保つため、オランダ時代にダムが建てられました。下山し、専用車でスラバヤへ向かいます。



織物ツアー

ウロス布／北スマトラ

ウロスは北スマトラのバタク族の伝統的な布です。ウロスの種類は多数あり、催事ごとに使い分けられます。ウロスは手織りです。バタク族の人々にとって3つの「暖」とは太陽、火、ウロスです。昔、バタク族は山岳地帯で暮らしていたため、ウロスを着て寒さをしのいでいました。北スマトラ州には多数のウロス織り工房があります。それらの中のひとつにトバ湖のサモシル島内のルンバンスヒスヒ村があります。現地の女性たちはそれぞれ違う意味を持つ多数のウロスを織ります。

ソンケット布／パレンバング、南スマトラ

ソンケットは南スマトラのパレンバング人の伝統的な布です。今は一般の人々がソンケットを着ていますが、昔は王族のみが身に着ける高価なものでした。ソンケットは手織りでシルクや綿などの生地にも金と銀の糸を織り込みます。ソンケットと似ている布は西スマトラ、スマトラ島のジャンビ、バリ、マレーなどもあります。パレンバングソンケットはインドネシアで最も良い品質のソンケットと言われています。高いソンケットは織りに3ヶ月かかります。普通のソンケットは織りに1日です。現地の女性は伝統的な服として「バジュ・クルング」とソンケットをよく着ています。それ以外は結婚式の持参金としてソンケットが使われます。ソンケットギャラリーがたくさんあるタンゴ・プトゥングエリアではソンケット製作工程の見学、ショッピングもお勧めです。

タピス布／ランブン、南スマトラ

タピスは南スマトラのランブン州の伝統的な織り布です。タピスはランブンの女性が織り、自然な物を使用して色を付け、金糸が張り付くように幾重にも丁寧に手刺繍します。儀式に着用、また装飾品としても使われています。タピスはランブン州のシンボルです。ランブンにタピス織りセンターがたくさんあり、ペシシルバラトやバンドルランブングにあるバンブクニグ市場で買うことができます。

サシランガン布／バンジャル、南カリマンタン

サシランガンは南カリマンタンにいるバンジャル族の伝統的な布です。ステッチ状に縫って強く縛った後で絞りに染める技術と、糸で布を小さくくった後でろうけつ染めを行う二つの技術が用いられています。昔、サシランガンは男性のヘッドバンドやサロングや女性のショールとして伝統的な儀式で着用されていました。現在は日常の服として綿以外のシルク、レーヨン、ポリエステルなどのサシランガンも作られています。バンジャルマシンにあるサシランガン村で買うことができます。

ウラブドヨ布／東カリマンタン

カリマンタンにはいくつかのダヤク部族がいて、その部族はそれぞれの織物をもっています。ウラブドヨ布は東カリマンタンのダヤク・ベヌアク部族の織物です。丈夫で良い品質をもっているドヨ葉の繊維を使用し、ウラブドヨ布を織ります。ダヤク・ベヌアク部族の女性はウラブドヨを使用し、服、かばん、ズボン、財布など作ります。17世紀クタイ王国時代からウラブドヨは作られ、多数の模様があります。タンジュング・イスイ村ではダヤク・ベヌアク部族の女性のウラブドヨ織りを見学出来ます。

ブギスシルクサロング／南スラウェシ

南スラウェシにいるブギス族の女性はシルク糸を使用し、ブギスサロングを織ります。このサロングは多数の模様がありますが、垂直・水平線や四角形模様が最も多いと言われています。サロング色は特別な意味があり、明るい色は独身女性と男性のためです。ブギスサロングは儀式や日常生活でも着用されています。通常、女性はブギスサロングとポド服を着て、ブギスサロングと伝統的なコートを着ています。ワジョ地区では製作工程が見学できます。ブギスサロングはシルクを使用しているため、今も、カイコファームと桑ファーム（カイコの餌）もあります。

バティック／スマトラとジャワ

バティックは世界無形文化遺産に認定されました。バティックはジャワとスマトラ地域の伝統的な布の1つです。バティックはジャワ語Amba=描くとTitik=ティックの意味です。バティックには4種類あります。手描きのバティックは「トゥリス」と呼ばれる伝統技法で制作されます。その方法はチャンティンと呼ばれる器具に熱したロウを入れ、図柄を書き込みます。スタンプバティックは「チャップ」と呼ばれ、銅製のモチーフ・スタンプを使ってロウを押しつける方法で作られます。「コンビナシ」は型押し型のチャップと手描きの技法を混じり合わせたものです。「プリント」バティックはろうけつ染めではなく、スクリーン・プリントでバティック調のモチーフをプリントしたものです。バティックは儀式や日常生活で着用されています。





バティック/ジョグジャカルタ

ジョグジャカルタはジャワ文化と芸術の拠点としてバティックも有名です。ジョグジャカルタのバティックは地色が天然染料の暗茶色（ソガ）や青色の暗いもの、地色が白やクリーム色なの明るいものです。模様は主として斜め縞・植物のモチーフ・格子模様・継ぎはぎ模様などが多いです。一般的には茶褐色系で濃淡がハッキリした大柄、動物をモチーフにした模様・幾何学的模様が特徴です。プリンハリジョ市場ではたくさんのバティックが売られています。バティックの価格は布種類と生産技法（ろうけつ染めかプリントなど）によって数千ルピアから数万ルピアなど異なります。

バティック/ソロ

ソロは中部ジャワではジョグジャカルタとともに重要なバティック生産拠点となっています。色は藍とソガ（茶色）の二色だけのものが多いですが、ソガの色が黄味を帯びた茶褐色の赤茶系や地色も薄茶と特徴があります。花・鳥・七宝柄・パラン柄が有名です。クレウエル市場とラウエヤンバティック村ではたくさんのバティックが売られています。

バティック/ペカロンガン

ペカロンガンは中部ジャワ島の北側海岸エリアにある小さな町です。ジャカルタから384キロメートル、スマラングから100キロメートルの場所にあります。2014年、ユネスコの世界創造都市網に加入しました。ペカロンガンのバティックはオランダ人のエリザ・ファン・セイレンがこの地に工房を開き、華やかなヨーロッパ風花模様のバティックを多く製作しました。当時、このバティックの評判が大変よく、多くの他の地域でも採用されたのがきっかけで発展しました。彼女がデザインした花束の模様はブーケタンで日本では花更紗として知られています。ペカロンガンの模様は動植物や宗教由来の空想模様や寺院などを写生風や物語風にして布全体に充填されるもの（セメン）や中華風が特徴です。色は赤いや黄色や緑や紫やオレンジ色などがあります。

バティック/チレボン

西ジャワ州に含めて、バティックはジャワ島の全エリアに広がっています。チレボンは西ジャワのバティックの産地のひとつです。特にトゥルスミのバティック村が有名です。メガメンドング模様をもつチレボンバティックは中国の影響を受けました。昔、チレボンではバティックは貴族のみが着用していました。

バティック/マドウラ

マドウラ島はジャワ島の北東に位置し、マドウラ海峡を挟んですぐの小さな島です。2009年に開通したスラムドゥ大橋によりジャワ島と結ばれました。マドウラ島は競牛で有名です。また、バティックも特産でバンカランにあるタンjung・ブミ村はおすすめの場所です。ジョグジャカルタやソロのバティックとは異なり、マドウラ島のバティックは明るい色の赤、薄緑、紫や青色などです。模様は花、葉、動物などです。

ベスレクバティック/ベンクル

スマトラ島にもバティックがあります。ベスレクバティックはスマトラのバティックのひとつです。アラビアン文字とラフレシア・アルノディという世界で最も大きい花の模様があります。ベンクルはラフレシア・アルノディの自生地です。ベスレクバティックは17世紀にアラビア人とインド人の商人によって現地の人に紹介されました。現在、ベスレクバティックは儀式に着るだけでなく、学生服と政府の役人の服としても利用されています。ベスレクバティックはアングトエリアとベヌルナンエリアへ行かれることがお勧めです。

ルリク布/ジョグジャカルタと中部ジャワ

ルリクは細い線を持ち、伝統的な綿から作られた織物です。昔、ルリクはジョグジャカルタと中部ジャワの男性達の日常服やジョグジャカルタやソロ王国の廷臣達の服でした。この服はスルジャンと呼ばれていました。ルリクの製作工程は中部ジャワのクラテン町とジョグジャカルタのスレマンにあるガンプロング村で見ることが出来ます。また、ルリク服はジョグジャカルタのマリオボロ道では馬車の運転手がよく着ています。

ササク織り布/西ヌサテンガラ

ロンボク島は西ヌサテンガラに位置して、自然と文化が豊かなエリアと言われています。ササク織り布はロンボクの有名な特産品です。サデ村はササク織り布の生産拠点で、ササク織り布の製作工程を見学、布を買うこともできます。サデ村以外では中部ロンボクにあるスカララ村にササク織り布の機織工房もあります。かぼんや財布なども作られています。

スンバ織り布/スンバ、東ヌサテンガラ

スンバ織り布は東ヌサテンガラのスンバで作られています。この織り布はシンプル模様ですが、持ち深い意味をもっています。いくつかの模様が神聖な模様とされ、昔は信仰的な式だけ着用されていました。他の模様は植物と動物模様があります。さらに、スンバ織り布の種類は東スンバと西スンバとあります。東スンバ布は動物やダイナミック模様を持ち、青い・黒いと薄青色があります。西スンバ布は細い線と左右対称形でシンプル模様を持ち、暗赤色やダーク黄色があります。東スンバ布の製作工程はスンバ島のカナタング、カンベラ、リンチ、ウマルルなど見ることが出来ます。西スンバ布の製作工程はワノハカ、ランボヤ、タナリグ村で見ることが出来ます。



茶畑

グヌンマス茶園

グヌンマス茶園は西ジャワ州、ブンチャク峠にあるチサルアのボゴールにあります。PT Perkebunan Nusantara (PTPN) VIIIという会社がこの茶園を管理しています。紅茶畑の見学は馬に乗るのか歩いてします。ここでは伝統的な方法で茶葉を摘みます。この茶園は3つの山に囲まれ、美しい景色が楽しめます。植栽、播種、開墾、畑メンテナンス方法、茶摘みなどが見学できます。グヌンマス茶園エリアに工場もあります。

カリグア茶園

カリグアアグリツーリズムは高原にあるアグリツーリズムエリアで、中部ジャワ州、パندانサリ村にあります。カリグアアグリツーリズムは政府 (PTPN IX PERSERO) が管理しています。カリグア茶園は黒い茶、茶バッグと茶粉を生産しています。お茶のパッケージにはカリグアブランドが明記されています。カリグア茶園ではお茶の試飲やカリグアの黒い茶を買うことができます。

ウォノサリ茶園

ウォノサリ茶園は東ジャワ州のアルジュノ山の麓トヨマルト村にあります。茶園の開園時間は毎日午前7時から午後5時までです。

カユアロ茶園

カユアロ茶園はオランダ時代に1925年に開園しました。ケリンチ山の麓でジャンビ州にあるカユアロ茶園は海拔1400~1600メートルにあり、3020ヘクタールと世界で2番目に広い茶園です。Perkebunan Nusantara (PTPN) VIという会社が管理しています。良質なお茶(黒茶)は輸出されています。茶園では植栽、播種、開墾、畑メンテナンス方法、茶摘みなどが見学できます。



第二次世界大戦の追悼の地

1. 日本軍の巨大な地下壕／ブキティンギ／西スマトラ

日本軍の巨大な地下壕はブキティンギのシアノク丘にあります。日本軍がこの地を占領していた当時、この地下壕は日本軍の防空壕として、1942年から1945年に建てられました。現在、観光客は135階段を下り、地下40メートル地点にあるこの地下壕に行くことができます。全長1,470メートルで幅は2メートルで電気もついています。弾薬倉庫、裁判ルーム、監視ルーム、台所などが27部屋あります。

2. インドネシア独立宣言起草博物館（前田精少将の家）／ジャカルタ

この邸宅は1920年に建てられました。第二次世界大戦中は日本海軍の前田精少将が住んでいました。1945年インドネシアの独立がスカルノ＆ハッタによって宣言されました。その宣言文を起草したこの邸宅が現在、博物館となっています。日本が敗戦した後、この家はジャカルタにあるイギリス軍隊の本部になりました。1984年以降、この邸宅は歴史的な建物となり、インドネシア独立宣言起草博物館としてインドネシア政府が管理しています。独立宣言記念碑はこの博物館から約2キロメートルの場所にあります。

3. 日本慰霊碑／タラカン／北カリマンタン

タラカンは油田の島と言われ、大量の高品質な石油の産油地です。第二次世界大戦前から日本人商人が油田を求め、訪れていました。第二次世界大戦ではオーストラリア軍を主力とした連合軍が侵攻し日本軍は惨敗しました。この地で亡くなった日本人商人と第二次世界大戦で亡くなった日本軍人のためにこの慰霊碑を建てられました。

4. 第二次世界大戦慰霊碑／ビアク／パプア

この慰霊碑は1992年から1994年に建てられ、日本軍隊地下壕の近くにあり、ビアク町から約7キロメートルの場所にあります。「第二次世界大戦慰霊碑」というタイトルが壁に貼ってあり、英語、日本語、インドネシア語訳が書いてあります。慰霊碑の敷地内には納骨堂が併設されています。その碑文には「戦争がもたらした全ての結果とその悲惨さを再び繰り返さないよう全人類に想起させる為のモニュメントである」。多くの日本人はこの慰霊碑を訪れています。

5. 日本軍隊の地下壕／ビンサリ／ビアク／パプア

1942年当時はビアクに約1万4百人の日本軍がいました。ビアクのビンサリには地下壕がありました。連合軍はこの地下壕にTNT という爆弾を打ち、大量のガソリンを使用してこの地下壕を焼きました。約3千人の日本軍この地下壕の中で亡くなりました。当時、この地下壕の中には倉庫、診療所、会議室などがありました。

6. 中村輝夫慰霊碑／モロタイ／北マルク

モロタイ島には中村輝夫元日本兵の慰霊碑が建てられました。台湾人の中村輝夫元日本兵は第二次世界大戦に日本軍として参加しました。日本は敗戦をしましたが、中村元日本兵はモロタイのジャングルに潜伏し、30年後の1974年に発見されました。発見された当時、中村元日本兵は第二次世界大戦が終わったことを知りませんでした。その後、1979年6月15日に亡くなるまで台湾の田舎町で暮らしました。



インドネシアでゴルフ

インドネシアは観光とアウトドアスポーツに適した国です。アウトドアスポーツの中のゴルフもインドネシアではおすすめです。世界レベルの設備が整い、活火山を含む山、海、湖、森といった自然に囲まれたゴルフコースもあります。

下記はご参考までにご案内致します。他にも多数あり、お手配も可能です。

1. パダン ゴルフ モダン (バンテン州・タンゲラン)

パダンゴルフモダン是一流のゴルフ・カントリークラブです。タンゲラン・バンテンにあり、ジャカルタから35キロメートル離れています。パダンゴルフモダンのゴルフコースは国際基準の18ホールあり、「全英オープン選手権」で5度制覇したピーター・トムソン氏の設計です。各ホールは細部までこだわったデザインとなっており、湖、長いフェアウェイ、グリーンまでの途中に配置されたバンカーが独特な美しい風景を作り出しています。

テニス、スカッシュ、バドミントン、オリンピックサイズのプールなど他のスポーツの設備も充実しています。ここを訪れる人達は自宅にいるように寛ぎながら、ゴルフやこの施設内の設備を楽しむことが出来るでしょう。

2. ガディンラヤ パダン ゴルフクラブ (バンテン州・タンゲラン)

ガディンラヤ パダン ゴルフクラブはバンテン州のタンゲランにあります。この広いゴルフコースは国際基準の18ホールあり、オーストラリアの建築家グラハム・マーシュ氏の設計です。

3. ランチャマヤゴルフコース (西ジャワ州・ボゴール)

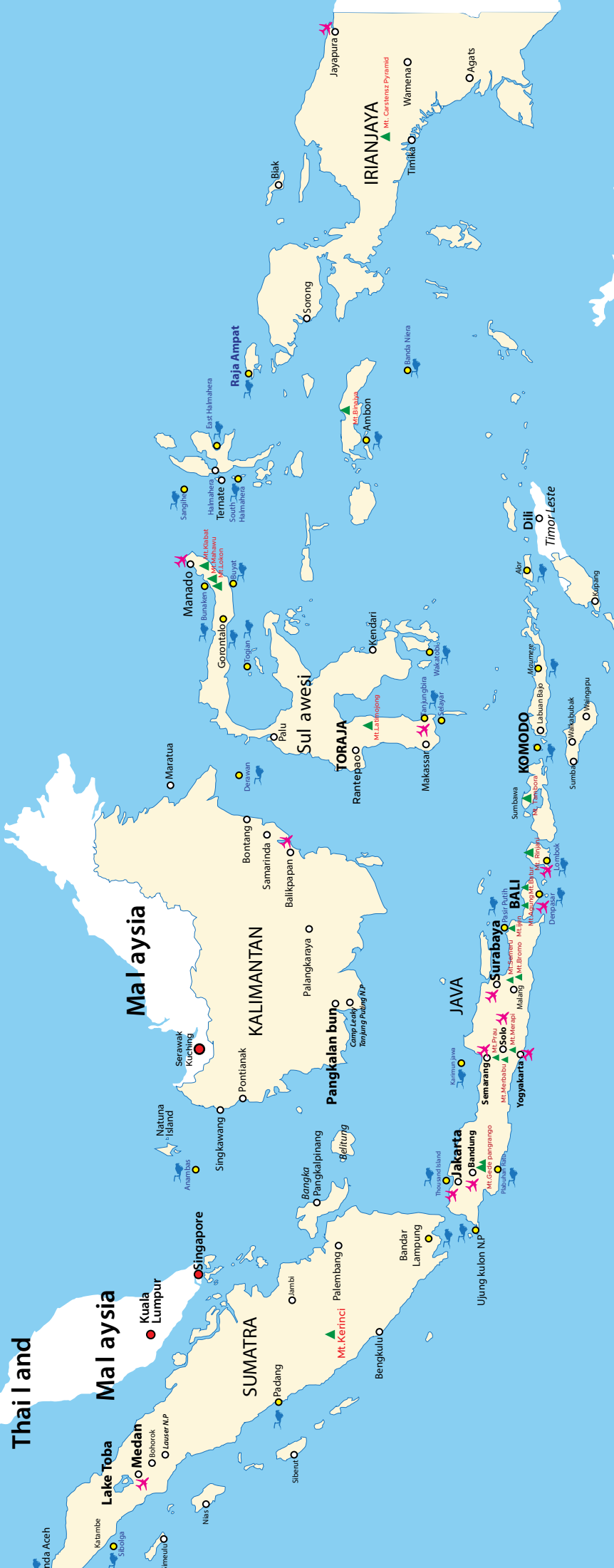
ランチャマヤゴルフコースは素晴らしいゴルフ・カントリークラブで、西ジャワ州のボゴールにあります。ランチャマヤゴルフコースは世界に名高いテッド・ロビンソン氏の設計です。国際基準の18ホールあり、山々、湖と自然の地形が織りなす絶景が楽しめるコースです。

4. クラブ ゴルフ リンバイリアン (パプア州・クアラケンチャナ)

クラブ ゴルフ リンバイリアンは1995年オープンし、国際基準の18ホールあり、熱帯雨林の中でのゴルフが楽しめます。







ADVENTURE INDONESIA

TOUR OPERATOR

Member of:
 Japan Association of Travel Agents
 NO.41814
 Association of the Indonesian
 Tours & Travel Agencies
 No.1659/VI/JASTRA/JAKARTA,2014
 Member No.2114

e-mail : japan@adventureindonesia.com

ADVENTURE INDONESIA - Jakarta Office
 Jl. Guru Serih No.38 Kalisari Cijantung,
 Jakarta 13790 - Indonesia
 P. +6221 293 833 01 | M. +62 878 225 75 951

ADVENTURE INDONESIA - Bali Office
 Bale Yoga No.1, Jl. Kertha Lestari, Sanur, Bali 80224 - Indonesia
 P. +62361 8497 647/648/649

BRANCH OFFICES:
 Pangkalan Bun Borneo, Wamena Irian Jaya,
 Rantepao Toraja, Sulawesi, Labuan Bajo, Flores - Komodo
adventureindonesia.com

AUSTRALIA